

## 11/21 サムエル記第二 7 章 8-17 節「永遠の王さま」

### 子ども祝福礼拝

小池 宏明 牧師

ダビデは長い年月に渡り、サウル王から命を狙われ続けた。しかし、ダビデは主の約束を信じて忍耐し続けた。

#### \*時が来てダビデ王即位

ついに主の時が来た。サウル王は、ペリシテ人との戦いで深手を負い自害した。ダビデの親友でサウルの息子ヨナタンも戦死した。イスラエルの民はダビデの所にやって来て、王になってくれるよう懇願した。ダビデは、まだ羊飼いの少年だった頃に、神様から次の王になると言われ、預言者サムエルから油を注がれていたが、ようやくイスラエルの王になることができた。たとえ、時間がかかっても、苦しいことが続いても、神様の決められたことは、必ず、その通りになるのだ。

王になったダビデは、40年間、イスラエルの国を治めた。主なる神様は、ご自分を信じて歩むダビデを祝福して、イスラエルの国を守り、強くした。ダビデはエルサレムを「ダビデの町」と呼んで首都にした。そして、エルサレムの町を城壁で囲み、この都に神の箱（契約の箱）を運び込んだ。神の箱は神の臨在のしるしである。イスラエルの人々はこのことをとても喜んでお祝いした。

#### \*永遠に堅く立つ王座

その後、イスラエルには平和な日々がやってきた。ダビデは神の箱のために立派な神殿を建てたいと願ったが、主なる神様は、それを望まなかった。むしろ、ダビデのために永遠に続く家を建てると語られた。また、主はダビデの子孫が受け継ぐ王国がいつまでも永遠に続くと言われた。今日の暗唱聖句、サムエル記第二 7 章 16 節は「あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」とある。神様はダビデの王国は永遠に続くと言われた。しかし、歴史を見ると、イスラエル王国は、分裂したり、外国に攻められたりして、見た目には永遠には続かなかった。とこしえの王座という約束は、ダビデの家系から、救い主イエス・キリストが生まれ、その王座を永遠とすることで実現したのだ。イエス様のお誕生、クリスマスを待ち望むアドベントが近づいている。イエス様は、神様のひとり子だが、人間のかたちをとってこの地上に生まれてきた。主は確かにダビデとその子孫であるイエス様を祝福してくださった。

私たちも、イエス様を信じて神様の子どもとされた。人間の王様には限界があるが、主なる神であるイエス様は、永遠の王様なのだ。そして、主なる神様は、イエス様を信じる私たちを永遠に続く天国に入れてくださる。私たちは、いつでもどんな時でも、永遠の王様であるイエス様にお従いして歩いて行こう。